

創設90周年を迎えた伝統！

本学会は、内分泌代謝学に関する学理及び応用の研究についての発表及び連絡、知識の交換、情報の提供等を行うことにより、内分泌代謝学に関する研究の進歩普及を図り、もって我が国における学術の発展と人類の福祉に寄与することを目的としており、平成29年に90周年を迎えました。内分泌代謝科専門医は、体の広い範囲に及ぶ臓器の内分泌代謝疾患を専門的に診察し治療する医師です。臨床専門領域は内科だけでなく小児科、産婦人科、泌尿器科、脳神経外科領域も包括し、研究領域も分子メカニズムから臨床疫学、情報など広範にわたります。よって、臨床医だけでなく、基礎研究者、企業関係者と多様な会員が所属しています。

＜内分泌代謝科専門医が診る疾患＞

- ◆視床下部・下垂体
(低身長症、先端巨大症、乳汁漏出症など)
- ◆甲状腺(バセドウ病、甲状腺機能低下症など)
- ◆副甲状腺(高カルシウム血症、骨粗しょう症など)
- ◆膵臓(糖尿病など)
- ◆副腎(高血圧症、低血圧症など)
- ◆卵巣・精巣(性腺機能低下症、無月経、不妊など)
- ◆心臓(心不全など)
- ◆肝臓(糖代謝異常など)
- ◆腎臓(貧血など)
- ◆脂肪(肥満症、糖脂質異常など)

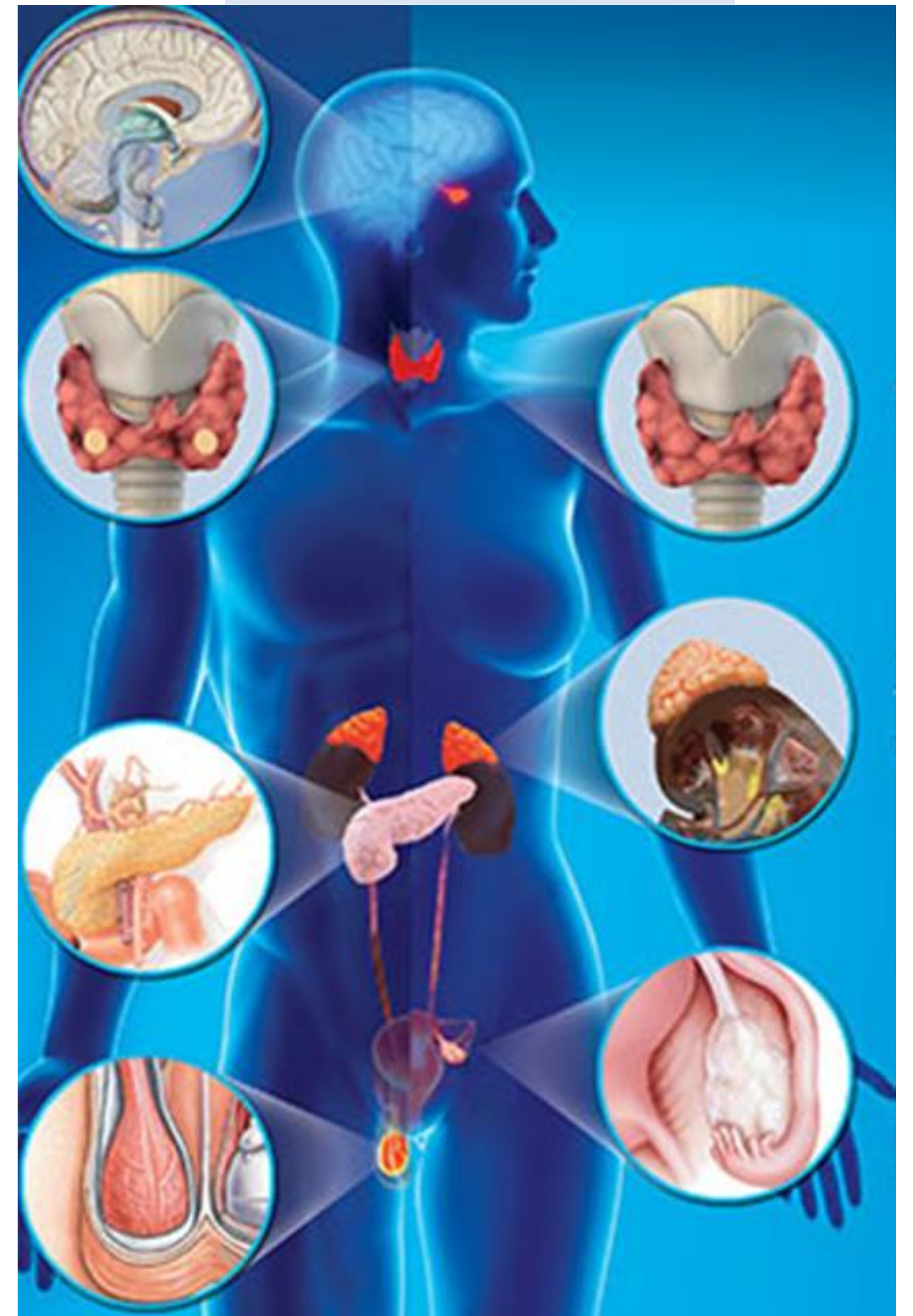
内分泌学研究の醍醐味

内分泌学研究は、この100年間で大きな進歩を遂げました。これまで日本人によって発見されたホルモンも多く知られています。1900年に高峰讓吉先生が発見したアドレナリンは、強心剤や気管支拡張薬などに使われているなど、研究成果によって多くの患者さんが救われています。

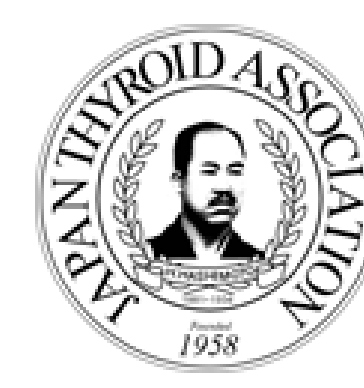
＜日本人によって発見されたホルモン＞アドレナリン、アドレノメデュリン、アディポネクチン、エンドセリン、オレキシン、キस्पテン、グレリン、心房性ナトリウム利尿ペプチドなど多数。

ホルモンは、すべての生命現象を担う基本物質であり、内分泌学は、生命体維持、すべての疾患の基盤です。

主な内分泌器官



6つの分科会



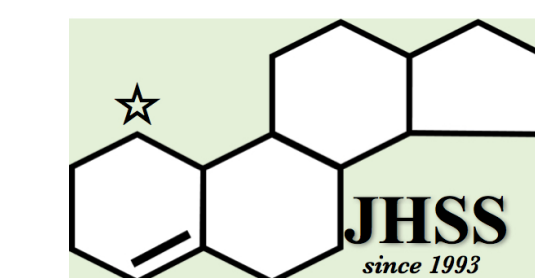
日本甲状腺学会
Japan Thyroid Association



日本神経内分泌学会
Japan Neuroendocrine Society



日本生殖内分泌学会
Japan Society of Reproductive Endocrinology



日本ステロイドホルモン学会
Japan Hormonal Steroid Society



日本心血管内分泌代謝学会
The Society of Cardiovascular Endocrinology and Metabolism



日本臨床内分泌病理学会
Japan Endocrine Pathology Society

男女共同参画の推進

JES We Can!

私たちの男女共同参画推進の活動内容を幅広くお伝えします

難病への挑戦

日本内分泌学会は、各分科会の協力のもとで厚生労働省難治性疾患克服研究班とも連携し、現在診療上問題となっている臨床重要課題を取り上げ、診断基準や治療指針の作成を進めています。

＜学会で作成した難治性疾患関連の刊行物＞

- ◇原発性アルドステロン症の診断治療ガイドライン-2009-
- ◇潜在性クッシング症候群(下垂体性と副腎)の診断基準の作成
「副腎性サブクリニカルクッシング症候群 新診断基準の作成」
- ◇褐色細胞腫・パラガングリオーマ診療ガイドライン2018
- ◇副腎クリーゼを含む副腎皮質機能低下症の診断と治療に関する 指針
- ◇わが国の原発性アルドステロン症の診療に関するコンセンサス・ステートメント
- ◇くる病・骨軟化症の診断マニュアル
- ◇ビタミンD不足・欠乏の判定指針
- ◇脂肪萎縮症診療ガイドライン
- ◇免疫チェックポイント阻害薬による内分泌障害の診療ガイドライン
- ◇間脳下垂体機能障害の診断と治療の手引き(平成30年度改訂)

一般社団法人 日本内分泌学会 The Japan Endocrine Society

代表理事: 赤水尚史(和歌山県立医科大学・隈病院)

事務局 〒600-8441 京都市下京区新町通四条下る四条町343番地1 タカクラビル6F

Tel: 075(354)3560 Fax: 075(354)3561 E-mail: jes-office@endo-society.or.jp

学会ホームページ <http://www.j-endo.jp>